

「あたらしく知ったこと」

犬山市立楽田小学校 三年

かとう あさひ

夏休みのはじめ、ちようこくてんへ行きました。ぼくは、気になる物があるとすぐにさわりたくなります。ママが、

「いろんなちようこくにさわれるよ。」

と、言ったのでぼくは、やったあと思ってわくわくしていました。

そこは、ママの学校の先生が友だちと来ていました。あと、三年生ぐらいの男の子や、白いつえを持ったおじさんがいました。

その日は、目が見えない人も楽しめる日でした。目が見えない人は、ちようこくが見えないので手でさわって、形を感じます。ぼくは、目で見たり、気になるところをさわったりしていました。

ぼくは、ママの先生と、同じグループで、まわりました。ちようこくのしようかいする、お兄さんも、いっしょでした。ぼくは先生に「三年のかとうあさひです。」

と、自こしようかいを大きな声で言いました。先生は目がまったく見えないそうです。心の中で見えないってどんな感じかなと思いました。

一つ目のちようこくは、大きなサイでした。ぼくも、見てすぐ分かったけどそれと同じくらい速く先生もさわって、

「これは、サイ。サイのツノで分かった。」

と、言ったのでおどろきました。ぼくもその後、目をとじてさわってみたけど、さらさらしてるぐらいしか分かりませんでした。

先生はさわりまくってぼくが気づかないことも、たくさん、教えてくれました。目で見ると、さわる方が気づくことが多いのかなあと思います。ぼくも、まねをしてさわりまくっていたら、顔が近くなって、いいにおいに気づいて、先生につたえました。先生も「本当だね。」

と、言ってくれて、うれしかったです。

先生と同じグループでちようこくをさわって、分かったことがあります。先生の友だちは、目の見える人で、先生がさわっている時しずかにしていて、分からないって言った時だけ、ヒントをだしたり教えたりしていたことです。目が見えない人に答えを教えると、わくわくがなくなるからだと思いました。ぼくだって、まん画のはん人を見る前に言われたらいやだから、同じことです。先生と先生の友だちは、たくさんおしゃべりしていて、すごく楽しそうでいいなと思いました。

どうやって話したらいいか、分からなくて、声がかけれなかったけど、べつのグループにいた、あの男の子といっしょに、ちようこくをさわって見たかったなあと、思いました。ぼくは、はじめて、目の見えない人といっしょにすごしました。すごしてみても分かったことがたくさんあります。どうしたらいっしょに楽しくすごせるか、もっと知りたいです。もっといっしょに遊んでみたいと思いました。